THE FRONTIER TIMES

Report •

日本とタイともに考えるSDGs

「バンコク都のためのSDGs推進研修(2018年7月2日~13日)」の 一環で7月4日(水)にバンコク都庁・国連地域開発センターの 職員20名の方が来校されました。

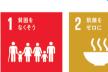
験されました。まず、キャンパスツア ーで校内を巡り、その後、国際バカロ レア・ディプロマプログラム(IBDP) や外国語の授業を参観。アクティブラ ーニングやネイティブインストラク ターによる生きた外国語の授業に感 心されていました。また、本校の英語 科主任の内藤圭祐先生より本校の国 際教育の取り組み状況について説明 がありました。放課後、IBDPやSGH・ Sus-teen!など本校で主体的に様々

な取り組みを行っている国際生たち とアクティビティを通して交流を行 いました。タイからの訪問のため、主 に通訳を通しての交流でしたが、両 国の印象やSDGsをテーマに積極的 に意見交換ができました。♪



♣ SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。2015 年9月の国連サミットで、全会一致で採択された2030年までの達成を 目指す17の国際目標です。「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、貧困に 終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受でき るようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。₺























[国際連合広報センター]

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/about_sdgs_summary.pdf

http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sustainable-development-goals.html



▲意見交換と交流後にバンコク都庁の職員とともに記念撮影

F/eature

フランス・パリ 国際連合教育科学文化機構本部との ビデオカンファレンスに参加!

5月30日(水)と6月13日(水)の2回にわたり、 ユネスコ本部主催のビデオカンファレンスが行われ、 本校『Sus-Teen!(サス・ティーン)』のメンバーが 世界各国の生徒たちと交流しました。

★ ユネスコビデオカンファレンスとは

本校は、2016年文部科学省ESD重点校形成事業のサスティナブルスクール全国 24校の1校として採択され、ユネスコ・パリ本部がホールスクールアプローチによ るESD推進事業として位置付けている「地球規模の気候変動プロジェクト」に取 り組む国内の10校にも選ばれています。今回のビデオカンファレンスは、国内の 「気候変動プロジェクト」に参加しているフラッグシップ校が、「気候変動プロジェ クト」に参加している海外のユネスコスクールとSkypeを活用して交流し、互いの

環境問題への取り組みを 海外の"仲間"にプレゼンテーション!

し、日本におけるESD(持続可能な開発の ための教育)実施先進校として認知を高 めています。ユネスコ本部では、国際的な 学校間の連携強化・情報共有を目的とし て定期的にイベントを開催。今回、本校に 対してビデオカンファレンスへの参加オ ファーが届き、気候変動に関する課題解 決をテーマにさまざまな活動に取り組む 名古屋国際の有志グループ『Sus-Teen!』 のメンバーが出席しました。

カンファレンスはインターネットで結 ばれた画面を通じて行われ、パリにある ユネスコ本部がファシリテーターとな り、本校に加えインドネシアとモンテネ グロの学校が参加。それぞれの取り組み を紹介し合い、質疑応答の時間も用意さ れました。『Sus-Teen!』のメンバーが プレゼンテーションしたのは、テニスボ ールを再利用した植木鉢や、特殊なアサ ガオを使った大気調査など日頃から継 続して行っている環境活動。ゴミの分別 により3R活動を啓蒙する「Sus-ガチャ」 についても熱心にPRしました。

英語でのプレゼンテーションに向け、 1週間前から資料や台本を用意し、何度 も練習を重ねて迎えた当日。「自分たち の目標や活動内容について、落ち着いて 伝えることができました。『Sus-Teen!』 について関心を持っていただけたこと も嬉しかったです」と振り返るのは大島 梨紗子さん(中高一貫3年生)。「もう少し 抑揚をつけて表現できたかな……」と課



▲「Sus-Teen!」の副リーダーを務める大島梨紗子

校はユネスコスクール加盟校と 題も見つかりましたが、これまでに『Sus-して世界各国の教育機関と交流 Teen!』の活動を通じて、さまざまな舞 台に立ってきた経験がしっかりと活か されたそうです。

カンファレンスに参加した他校の取 り組みも、興味深いものばかりでした。 インドネシアの学校が取り組んでいた のは、自転車を漕いで携帯電話の充電用 電力を作る「バイオサイクリング」。モン テネグロの学校からは、理科の授業で気 候について学んだり、美術の授業で環境 問題に関するポスターを描いたり、教科 の垣根を越えて地球環境に対する意識 を高めていることが紹介されました。

カンファレンスを通じて気づいたの は、「環境問題」という共通のテーマで も、国によって抱える問題や視点に違い があること。「それぞれの地域に適した 活動方法を見つけることが大切だと感 じました。それでも、発想やアイデアは 参考にできる部分もたくさんあり、今後 の『Sus-Teen!』の活動につなげていけ



▲「活動に参加することが楽しみ」と目を輝かせる 濱井かはなさん(中高一貫3年生)

ればと思います」と濱井かはなさん(中 高一貫3年生)。6月に参加した2回目の カンファレンスで、ウガンダの学校と交 流した際には、「野生動物の鳴き声が聞 こえたり、英語のアクセントに大きな違 いがあることに驚きました」と笑顔を見 せる2人。会議が行われたのは日本時間 の午後4時でしたが、ユネスコ本部や交 流校は午前中だったことなど、今回の体 験は世界の広さを改めて実感する機会 にもなったようです。 ❖



▲ビデオカンファレンスについて振り返る、左から/理科の藤井新次郎先生、大島さん、濱井さん、



▲WOCの設備を利用して"国際会議"を体験



▲英語の資料を準備し、英語で発表しました

たくさんの人に『Sus-Teen!』を知ってほしい

とか伝えようと努力する姿勢がとても印 象的でした」と語るのは、会議に同席して 生徒たちを見守った英語科の渡邊えみ先 生。ビデオカンファレンスへの参加は、実 践を通じて英語力を磨く貴重な体験の場 にもなりました。

また、ユネスコ本部からは、学校の中だ けではなく家族や地域の人へ輪を広げて いくこと、学校間の直接交流を継続・発展 させることなど、さまざまなアドバイス や激励も受けました。なかでも生徒たち 発想を実行に移すことが大事だというメ ッセージです。「『小さな行動の積み重ね が世界を変えていく』という言葉が心に 響きました」と目を輝かせるのは濱井さ ん。今年4月に本校へ転入した帰国生の濱 の活動。以前に通っていたUAE(アラブ首 ちらかといえば理想を描くことに主眼が 実現させるために、国際生が実際に行動

す」と『Sus-Teen!』の魅力を語ります。

ESD活動を積極的に実施・啓蒙する有

「美語の質問に対して皆で協力しな 志グループとして発足した『Sus-がら、一生懸命に聞き取り、なん Teen!』が大切にしていることは、「メン バーがそれぞれに役割を持ち、一人ひと りが主役という気持ちで主体的に活動に 取り組むこと」と藤井新次郎先生。①地 域、②生物多様性、③貧困、④減災、⑤環境 という5つのテーマに分かれてチームを 編成し、40名を超えるメンバーがアイデ アを持ち寄り、さまざまなプロジェクト の企画を立案しています。「自分たちで活 動内容を考えるので、ミーティングはい つも活気にあふれています。少人数のグ ループにすることで、一人ひとりが積極 の心に強く残っているのは、アイデアや的に意見を出せるようになり、ビデオカ ンファレンスに参加したことで、より具 体的な企画が出てくるようになりまし た」と、大島さんは"組織としての成長"も 実感しています。

今年は名古屋市が主催する「環境デー 井さんにとって、今回のビデオカンファ なごや」や、12月に東京で開催される「第 レンスが『Sus-Teen!』としての初めて 20回エコプロダクツ」にもブース出展を 予定するなど、勢いよく活動の幅を広げ 長国連邦)の学校でも環境改善プロジェ ている『Sus-Teen!』。「自分たちの活動 クトに参加した経験はありましたが、ど 内容を伝えることにも、他の学校や企業・
 団体の取り組みを知ることにも大きな意 置かれ、実際にアクションに移す機会は味があると思います。たくさんの人に 少なかったといいます。「名古屋国際中学 『Sus-Teen!』の存在を知っていただい 校では『こうなると良いな』という理想を て、いろいろな人との"つながり"を築くこ とができれば」と大島さん。新しい"出会 を起こしていることがすごいと思いま い"や"発見"へのワクワク感に満ちた言葉 が、『Sus-Teen!』の学びの充実度を物語 っています。

THE FRONTIER TIMES



トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長 豊田章男氏が 来校されました!

6月30日(土)に"豊田章男のホッケー仲間たち"が来校し、 交流試合を行いました。

また、Sus-Teen!と豊田章男社長との対談も行いました。



▲愛用のスティックとともに笑顔を見せる豊田社長

月30日(土)、名古屋国際中学 校・高等学校グランドにて、ト ヨタ自動車株式会社様と名古屋国際 中学校・高等学校陸上ホッケー部と の交流イベントを行いました。当日 は、トヨタ自動車株式会社代表取締 役である豊田章男社長と"豊田章男の ホッケー仲間たち"が多数来校されま した。交流は、トヨタチーム2チーム と名古屋国際チーム2チームで交流 試合を行いました。トヨタチームは 久しぶりのホッケーで、感覚をつか むまでが時間がかかった様子でした が、試合が始まると必死な姿と果敢 なプレーが見受けられたのと同時 に、お互い笑顔が絶えない良い試合 となりました。試合後は、豊田社長か らインターハイ出場を決めた国際生 にむけて激励をいただきました。集 合写真を取った後も豊田社長が愛用 していた昔のホッケースティックを 触らしていただくなど、和気あいあい とした雰囲気がありました。

また、Sus-Teen!からのインタビュ ーにも快く引き受けていただきまし た。質問内容は、①どうすれば画期的 なアイデアが生まれるか?②どのよ うな問題を選んで取り組めばいい

しさを失わないためには何が必要? ④ミーティングをする上で大切なこ との4点。それぞれの質問に対して、 時には熱く、時には笑顔で回答して くれました。以下は、それに対して、 Sus-Teen!が分析した内容です。『豊 田社長をインタビューして見つけた キーワードは、「自分」。他の人からの 知識や知恵を「自分」のものに変え、 「自分らしく」していく。戦うべき相手 も常に「自分」である。"こうあるべ き"を捨てて、「自分」で「自分」を窮屈 にしない。その考えの根底には、変え られるのは"他人"ではなく「自分」で あることということ。これは、インタ ビューをして感じた豊田社長の温か さ・穏やかさに表れていると思う。そ うしたぶれない軸が、豊田社長自身 の中に確立していると感じた』。この 分析を後日豊田社長にお送りしたと ころ、「新しい自分を見つけてくれ た」ととても感心されたと社長室の 方からのメッセージを受け取りまし た。ホッケー部とSus-Teen!のそれぞ れがさまざまな場面で活躍する方々 と交流ができ、とてもよい経験にな ったと感じます。♪

か?③多文化を取り入れつつ日本ら



▲トヨタチームと名古屋国際ホッケー部の集合写真